

「イエスは復活、イエスは命」
ヨハネによる福音書 11 章 17-27 節

ベタニアという小さな村にマルタ、マリア、ラザロという三人の姉弟が住んでいました。そのラザロが病気で危篤になりました。知らせを受けたイエスさまが到着した時には、ラザロは死んで墓に葬られ、四日も経っていました。

この出来事が起こった時、人々は深い嘆きと悲しみに包まれていました。死というのは、ある意味で自然なことです。死は誰にでも必ず訪れ、いつかは必ず死ぬ定めになっています。しかし、私たちにとって死がそう簡単に割り切れるものでないということも、また事実です。ですから、私たちは死に直面するとき、悲しみや嘆き、恐れや不安、私たちの心を引き裂く死に対する憤りのようなものさえ感じるのです。

そのような中で深い大きな慰めとなることは、イエス・キリストは、私たちと一緒に、一人の人間の死に対して興奮し、涙を流し、憤りを持ってくださるお方であるということです。イエスさまは、愛するラザロの死に対して涙を流され、また人々を悲しませ、イエスさまご自身をも悲しませる死の力に対して憤ってくださいました。

確かに死は、信仰者の信仰をも無力にしてしまうような、深い絶望のどん底に突き落とすような出来事です。死の理不尽さに対して、やりどころのない怒りを覚えるものでもあります。しかし、私たちがどんなに怒っても、その怒りはまったく無力な怒りにすぎません。

ところが、イエスさまは、そのような無力な私たちの怒りをご自分の怒りとしてくださったのです。私たちと共に憤り、私たちと共に悲しんでくださるお方、それがイエス・キリストなのです。それを見て、嘆き悲しんでいた人々は慰めを得ることができました。キリストの愛を知ることができました。それゆえ彼らは、「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか」と言ったのです。それはラザロだけではありません。イエスさまは、同じように私たちをも愛していたださっているのです。

しかし、一方では、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う人もいました。イエスさまが私たちと一緒に、死に対して憤り、悲しんで下さることは分かったとしても、そのイエスさまの大きな愛でさえも、死の前では何も為す術を持たないではないかということです。この人たちは、目に見える現実だけを見ていました。ですから、彼らは、イエスさまのことを、この世で生きている者に対してだけ偉大な業や奇跡的な癒しを行うことができる方なのだ、としか見ていなかったのです。つまり、この世を歩む中で、困った時に頼るべき人としてしか捉えていなかったのです。

そのような人たちに対して、イエスさまは「もし信じるなら、神の栄光が見られる」と言われました。つまり信じる時に初めて、神の栄光が見られると言うのです。たとえ同じことを経験していたとしても、そこに信仰がなければ、神の栄光を見ることはできません。同じ出来事を目の当たりにしても、そこに神様の御心を読み取ることができるかどうか。それは私たちの信仰にかかっているのです。もちろん、私たちの信

仰があろうとなかろうと、神さまの御業は始まっています。それは今もなされています。神さまの御業は、私たちの信仰に左右されるものではありません。しかし、それだけでは、私たちの人生は変わりません。それが変わるとすれば、私たちが信仰をもってそれを受け入れる時です。信仰の目をもって見始める時に、今まで見えていなかったものが見えるようになる。神様の思い、イエス・キリストの思いが伝わってくるのです。

けれども、そのように信じることができないで、その手前でもがいている人たちのために、イエスさまは何とか信じることができるようにと、大きなことをしてくださいました。それがラザロの甦りだったのです。ラザロの甦りは、死の力を滅ぼして、ラザロに「永遠の命」を与えることが目的なのではありません。あくまで、それを見る人に、神の栄光を現して人々を信じる者とさせることにあったのです。なぜなら、「わたしは復活であり命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」とされているように、イエスさまを神の子として信じ、この方にこそ救いがあると信じるこそ、復活の命を受けて生きることだからです。

イエスさまは言われます。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」と。

イエスさまは、「わたしはあなたに命を与える者である」とは言わずに、「わたしこそがあなたの命である」と言われました。また、「わたしはあなたを甦らせることができる」とは言わずに、「わたしこそがあなたの復活である」と言われました。すなわち、イエスさまが与えてくださるものは、イエスさまに付随する命や復活の力というものではなくて、イエスさまご自身をあなたの命、あなたの復活として捧げてくださる、与えてくださる御方であるということです。

私たちは、そのキリストの命に生きる者とされているのです。神さまは、キリストの十字架と復活によって私たちを永遠の命の源であるイエス・キリストに結び合わせてくださっているのです。この神の愛こそ、私たちの希望ではないでしょうか。私たちは、この復活の命に生き続ける者でありたいと願います。